

安来市立病院 地域連携室つうしん



連携室は先生方のお役に立てるよう尽力します。
ご依頼お待ちしております！

安来市立病院 地域連携室
担当：竹田・田中・長島・加納・中村
予約受付時間 8:30~17:00
TEL 0854-32-2333
FAX 0854-32-2335



10月採用医師の紹介

消化器内科 今本 龍 医師

このたび、平成29年10月1日より安来市立病院に赴任しました、今本と申します。

これまで主に内視鏡を含めた消化器疾患を中心に診療に携わって参りました。

皆様のご指導をいただきながら、地域の医療に少しでも貢献できるよう努めて参りますので、何卒よろしくお願い致します。

《 安来市立病院基本理念 》

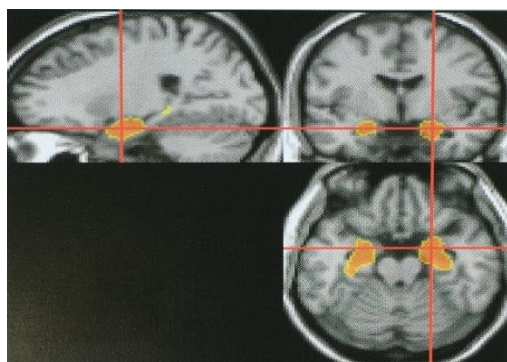
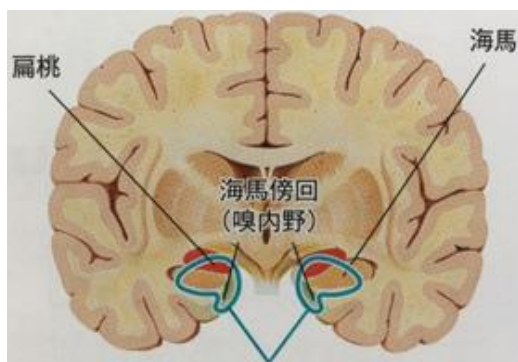
人を大切に、よい医療・やさしいケア・安心を提供できる病院を目指します。

早期認知症診断支援システムについて 放射線技術室より

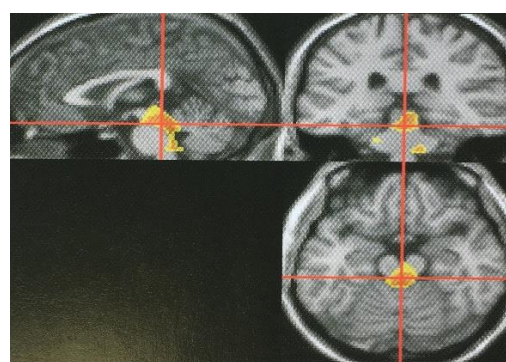
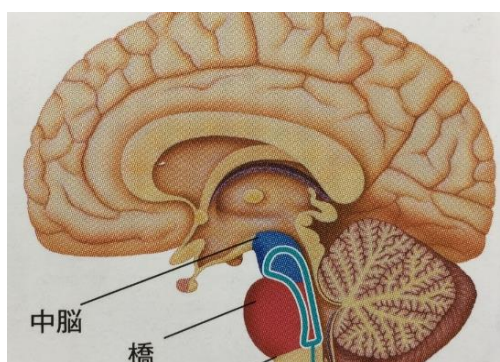
超高齢化社会が進む中、アルツハイマー型認知症（AD）の患者さんは急増し、介護の負担を含め社会問題になっています。また、三大認知症の一つといわれるレビー小体型認知症（Dementia with Lewy Bodies:DLB）も増加傾向にあります。ADとDLBは、治療方法やケアのあり方が異なるため、この二つの鑑別は大変重要視されています。このような環境下で、ADとDLBの鑑別を考慮するため、当院では早期認知症診断支援システム（VSRAD advance2）を利用し、参考指標として診断に役立っています。VSRAD advance2とは、頭部MRI画像のデータで脳の容積をコンピュータ解析し、萎縮の程度を評価する検査です。ADでは、海馬・海馬傍回付近の萎縮があり、DLBでは、背側脳幹の灰白質および白質の萎縮が目立つことが判明しています。早い段階から診断できれば、積極的な治療の開始へとつながり、結果として認知症の進行を遅らせることができます。

※対象患者様はもの忘れが気になる方で、50歳以上の方が対象になります。

アルツハイマー型認知症（AD）



レビー小体型認知症（DLB）



出前講座に行かせていただきました！！

地域連携室 田中詳子

今回は「嚥下の基礎と食事介助」というテーマで
尼子苑様に行かせていただきました。

内容は、摂食・嚥下障がいの基本を、当院の言語
聴覚士がお話させていただきました。

講座の内容は、実際にペットボトルを使用し嚥下
機能（咽頭や喉頭）を再現し、どのように食物が嚥
下されているのかを、知っていただきました。これ
をもとに、座学にて誤嚥はどのように起こるのかを
確認していただきました。また、出前講座終了後のアンケートから、「食事形態の見極め方はどうしたらよいか」「開口困難な方にどのように接したらよいか」など実際の利用者様に対してどのようにアプローチしたらよいかという疑問が次々と生まれていました。食事摂取は介護・医療の中で基本となることで悩みもつきません。こういった出前講座を通し、一緒に考えさせていただき少しでもお役に立てれば幸いです。



めめ方はどうしたらよいか」「開口困難な方にどのように接したらよいか」など実際の利用者様に対してどのようにアプローチしたらよいかという疑問が次々と生まれていました。食事摂取は介護・医療の中で基本となることで悩みもつきません。こういった出前講座を通し、一緒に考えさせていただき少しでもお役に立てれば幸いです。

当院では、他にも出前講座を承っております。（出前講座の案内を参照して下さい。）ご希望の方が居られましたら、安来市立病院 企画経営課もしくは地域連携室まで連絡をいただければ、幸甚に存じます。





平成 29 年 9 月 9 日に松江市で行われました、第 16 回医療マネジメント学会島根支部学術集会で発表しました「健診で役立つ安価なデータベースについて」という演題について紙面を借りまして、発表させていただきます。

当院の健診システムは、電子カルテと直接にはリンクしていない事務用ソフトはありますが、健診の診察時点では使うことができません。そのために、当日は電子カルテで確認しながら診察を行ない、比較する過去のデータは紙ベースが主体で参照するしかありません。しかし、診察にも使用できる新たなソフトを導入することは、公的病院にはコスト的な負担が大きく、そこで 6 年前よりパソコンに標準装備してある Excel を使い、診察の時に血液検査などの判定を直ちに行い、説明できるソフトを作製し使用しています。さらに今回、過去の健診データを容れたデータベースを Access で作成しました。

紙カルテでは過去の健診項目判定を確認することが、たいへん煩雑でしたが、健診診察室で、電子カルテの 2 画面で Excel の判定ソフトと Access のデータベースソフトを同時に展開して、受診者に詳細な説明が可能となりました。



過去の健診項目ごとの判定を参考にすることで、受診者の治療状況や健康への意識度もみることができます。過去の栄養指導の有無や、その後の健康状況を確認できます。また、健診に際しての指導にも温度差をおくことで、受診者のニーズにも応えることができます。電子カルテでも過去のデータをみることも可能ですが、外来も受診している場合などでは時系列の展開において特定の健診データのみを出すのは困難です。健診専用のデータベースであれば、グラフ展開も過去の特定の健診データのみを展開できます。



一昨年に電子カルテの更新に際して、健診システムも導入することが検討されましたが、Excel や Access を使用している現在のシステムにより 1,500 万円の節約ができました。これらのソフトを活用して、地域の医療の質の向上に貢献していきたいと考えています。